
職員の腰痛負担軽減目的のノーリフトチーム～不良姿勢改善の重要性

医療法人衆和会 長崎腎病院

○川道 美鈴 山内 しのぶ 丸田 麻莉絵 山中 真紀子 丸山 祐子 船越 哲

【背景】

当院では、2019年の調査で職員の腰痛保有率約77%であり、様々な対策を講じてきたが、2021年の腰痛保有率は53%であった。業務改善・ノーリフトの意識づけが当院の課題であり、対応策として福祉用具の導入と不良姿勢ラウンドを行った。

【目的】

対応策を実施した前後の当院職員のノーリフトの意識を調査し、腰痛保有率・職員の意識の変化を観察する。

【方法】

福祉用具導入前、3ヵ月後に当院職員216名全員にアンケートを実施し腰痛保有率と意識の変化を調査し不良姿勢ラウンドも実施した。

【結果】

腰痛保有率は前回の結果より、24%減少した。福祉用具の使用率は70%に上昇した。腰痛の誘因は、「不自然な姿勢」が最も多かったがノーリフティングへの意識付けをされたことが示された。

【考察】

今回の調査で、不良姿勢が腰痛の最大の要因であった。不良姿勢改善の意識が浸透するまでは時間を有し、今後のノーリフトチームの活動の課題となる。